

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

兵庫医科大学炎症性腸疾患外科での国内研修を終えて

浜松医科大学外科学第2講座

杉山 洸裕

日本臨床外科学会国内外科研修制度に応募させていただき、令和3年9月27日から10月8日までの2週間兵庫医科大学・炎症性腸疾患外科において国内研修をさせていただきました。今回、様々な方々に支えていただき、採用いただきましたが、実際に研修が始まるまでCOVID-19の感染の拡大もあり、研修ができるのか不安に思っておりましたが、幸いにも研修の許可をいただき、充実した研修を経験することができました。このような貴重な機会をいただけたことを、日本臨床外科学会国内外科研修委員会委員長高山先生、日本臨床外科学会の皆様に感謝申し上げます。

当院は静岡県唯一の医学部を有する大学の附属病院であり、炎症性腸疾患の治療も行っております。近年炎症性腸疾患の患者数は増加の一途を辿っており、内科的治療の進歩により炎症の制御が可能な症例も増えている一方で、潰瘍性大腸炎では内科的治療抵抗性、dysplasia・癌などでの手術、Crohn病では狭窄や瘻孔での手術を避けられない症例が一定数認められています。当院でも炎症性腸疾患の手術は年間10例を超える症例があり、疾患の増加や近隣の医療状況から今後症例数が増加すると考えております。潰瘍性大腸炎やCrohn病の手術では疾患特異的な難しさもあり、術中判断・対応を求められる疾患と考えておりました。当院での治療を向上させるため国内有数の症例数を誇る兵庫医科大学・炎症性腸疾患外科での研修を希望させていただきました。今回の研修では2週間と短い期間ではありましたが、潰瘍性大腸炎の予定手術4件、Crohn病の手術2件といずれの疾患の手術についても見学することができました。

潰瘍性大腸炎に対し、当院でも腹腔鏡で手術を行っておりますが、当院との違いや手順・工夫について大変参考になりました。近年の傾向としてdysplasia・癌に対する手術が増加し、内科的治療抵抗例と比較して内臓脂肪が多い症例が増えてきているため術中操作や吻合の難易度、吻合方法に影響があることを実感できました。そのような症例では腹腔内操作に苦勞するところと感じましたが、先生方の連携により症例に応じた丁寧で迅速な視野展開を行い、滞りなく手術が進行していくところに感銘を受けました。吻合はIPAAを基本とされておりましたが、回腸嚢を肛門まで到達させるための間膜の開窓、血管処理、腹腔側からの操作などの工夫はとても参考になりました。IPAAの症例は1例のみではありましたが、IPAAの吻合時の注意点やコツ、判断のポイントや回腸嚢の作成方法についても実体験を通じて学ぶことができ、非常に良い経験となりました。また、潰瘍性大腸炎の吻合の使い分けや肛門機能・全身状態に応じた適応、術中判断の要点など多くのことを学ぶことができました。

Crohn病では手術歴のある狭窄・膀胱瘻症例も見ることができましたが、剥離や術中の病変の確認、切除適応の判断、腸管吻合の考え方、責任病変の判断などについて学ぶことができました。人工肛門がCrohn病の病変により陥凹した症例の再造設も見ることができ、人工肛門再造設術前の注意点として当院でも今後治療していく際には意識していく必要性を感じました。また、難治性肛門病変を伴う場合には痔瘻癌発生が問題となる疾患ではありますが、high volume centerでのフォローアップなどもお聞きすることができ、今後参考にしていこうと考えております。

潰瘍性大腸炎術後のトラブルとしてやはりoutlet obstructionが多いようでしたが、ストーマ造設部の位置を工夫するなどの対策もされており、今後の参考となりました。

病棟の管理については池内先生が月曜～木曜の毎朝回診をなさって患者さんの診察をしており、常に気を配っていることに感銘を受けました。スタッフが学生に対して行う講義も見学させていただきましたが、学生への教育も熱心にされている姿に感動を覚えるとともに、指導後に学生の理解度が非常に高くなっていることに驚かされました。週1回の炎症性腸疾患外科内科のカンファレンスも開催されており、内科・外科間の連携にはカンファレンスを定期的かつ円滑に行っていくことが重要なことと再認識することができました。

研修を行った期間は2週間と短くはありましたが、非常に充実した時間を過ごさせていただきました。専門的な治療を行う他施設に見学することで多くの気づきがあり、非常に良い経験をさせていただいたと実感しております。国内研修を通じ学んだことを当院での炎症性腸疾患治療に役立てていければと考えております。

最後にはなりますが、この場を借りて池内浩基主任教授を始めとした兵庫医科大学炎症性腸疾患外科医局の皆様、パラメディカルの皆様に感謝申し上げます。また、ご推薦いただきました日本臨床外科学会静岡県支部長の川村統勇先生、浜松医科大学外科学第2講座の竹内裕也教授、2週間の不在を許可していただいた当科医局員の一同にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。